

エコマーク運営委員会（第37回）議事要旨

公益財団法人日本環境協会  
エコマーク事務局

日 時：平成28年9月20日(水) 15:00-17:00

場 所：公益財団法人日本環境協会会議室

出席委員：池田 三知子 ((一社)日本経済団体連合会[委任状出席])  
伊坪 徳宏 (東京都市大学)  
大沼 章浩 ((一社)全日本文具協会)  
奥山 祐矢 (環境省)  
角田 禮子 (主婦連合会[委任状出席])  
酒巻 高一 ((一社)日本オフィス家具協会)  
谷口 徹也 ((株)日経BP)  
筒井 隆司 ((公財)世界自然保護基金ジャパン)  
中西 英夫 ((一社)ビジネス機械・情報システム産業協会)  
中本 純子 ((一社)全国消費者団体連絡会)  
奈良 松範 (諏訪東京理科大学)  
西尾 昇治 (東京商工会議所[委任状出席])  
西尾 チヅル (筑波大学大学院)  
○平尾 雅彦 (東京大学大学院)  
平田 実 (神奈川県[委任状出席])  
藤田 親継 (生活協同組合連合会コープネット事業連合[委任状出席])  
堀井 浩司 ((一社)日本電機工業会)  
増田 充男 (日本チェーンストア協会[委任状出席])  
松本 浩司 ((独)国民生活センター)  
森原 琴恵 (日本労働組合総連合会)  
山崎 和雄 (日刊工業新聞社)

(以上21名、50音順、敬称略、○：委員長)

欠席委員：布川 賢一 ((一社)電子情報技術産業協会)

(以上1名、50音順、敬称略)

事務局：森嶋、柏木、宇野、小澤、坂本、相原、藤崎、大澤、漣、菅原、佐野

- 議 題：1. 平成 27 年度(2015 年度)エコマーク事業収支決算報告  
2. 平成 28 年度(2016 年度)エコマーク事業の進捗状況について(報告)  
3. その他

配布資料一覧：

- 平成 28・29 年度（2016・2017 年度） エコマーク運営委員会 委員名簿  
運営委 37-1 平成 27 年度(2015 年度)エコマーク事業収支決算報告  
運営委 37-2 平成 28 年度(2016 年度)エコマーク事業進捗状況について(報告)

#### 1. 新委員紹介、委員長・委員長代理の選出

(一社)日本経済団体連合会根本委員の後任として池田委員、東京商工会議所高野委員の後任として西尾委員、神奈川県村岡委員の後任として平田委員、(一社)電子情報技術産業協会佐藤委員の後任として布川委員、(独)国民生活センター河岡委員の後任として松本委員が就任されたことが紹介された。

委員長・委員長代理の選出を行い、委員長に平尾委員が選出された。また、委員長の指名により委員長代理に伊坪委員が選出された。

#### 2. 平成 27 年度(2015 年度)エコマーク事業収支決算報告

○資料「運営委 37-1」に基づき、事務局より平成 27 年度エコマーク事業収支決算について報告された。

○事務局説明後の主な質疑応答は以下のとおり。

- ・事務費について、支出が増えた主な理由は何か。

事務局) 事務費については当協会全体の収支を鑑み、エコマーク事業の負担額を決定している。予算に対して決算額は増えたが前年実績とほぼ同額であった。

- ・エコマークの役割が変化していく中で、普及啓発をさらに進めていくべきと思うが、昨年度のように予備費が設けられていないことをどのように考えているか。

事務局) 今年度予算において予備費の計上は叶わなかったが、予算に囚われず、全体の執行状況を見ながら、必要な活動についての経費は支出していきたい。

#### 3. 平成 28 年度(2016 年度)エコマーク事業の進捗状況

○資料「運営委 37-2」に基づき、事務局より平成 28 年度エコマーク事業の進捗状況について報告された。

○事務局説明後の主な質疑応答は以下のとおり。

- ・基準適合試験調査について、塗料の検査についての背景と含有物質などについて具体的に教えて頂きたい。

また、エコマークアワードについて、事業者の動機付けになるので大変よい取り組みであると思うが、選考委員会当日のプレゼンテーションが選考の重要な要素になっていて、それを総合的に判断するようになってきている。昨年度にエコマーク認定商品の CO2 削減効果を調査したこともあり、例えば、対象事業者の取組事例やエントリー商品の普及によってどの程度の CO2 削減効果があったかという定量的な情報があると、新たな選考基準で審査できるのではないかと。

3点目は、企画戦略委員会の中で持続可能性を考慮した基準に関して議論を始めたことについて、SDGs との関わりとともに情報提供して頂きたい。

事務局) 塗料の基準適合試験については2つの試験を実施した。水系塗料について、芳香族炭化水素類5成分の含有試験およびVOC含有試験を認定基準に基づき外部試験機関で確認した。その結果、1社1商品についてトータルVOCが基準値超過を示したため、極微量の物質に対する含有量試験であることを踏まえ、当該事業者に状況確認を行ったところ、エコマーク認定後に未届けで行った一部添加剤の変更起因してVOC値が上昇したと推定できた。ただちに添加剤を変更することは難しく、エコマークの認定を取り下げた。

エコマークアワードについては、CO2削減効果などの定量的な指標を評価項目に加えることも考えられる。現在、次年度以降のエコマークアワードのあり方を検討しており、ご意見を踏まえて改善していきたい。

持続可能性を考慮した基準に関する議論はこれからであり、今後各方面のご意見を頂く予定である。

- ・相互認証について、グローバルに活動する企業にとってはエコマークの価値が高まるので心強く、さらに進めて行ってほしい。中国、韓国、欧州、北欧、ドイツ、北米についてはしっかりアプローチしている。併せて、市場の大きいインド、ブラジルなどもパリ協定の関係から様々な規制が入ってくると思われ、また多くの国が環境ラベルを導入している。日本の企業としては相互認証ができればよいと思うところで、今後は戦略的アプローチが必要になってくるので、具体的な戦略があればお聞かせ頂きたい。

事務局) エコマークの基準をグローバルスタンダードにできればよいと考えている。なかでもドイツブルーエンジェルについて、複合機などは日本企業の製品が多く流通していることから、エコマークの基準がより多く採用されることを目指し、相互認証の拡大に向けて、さらなる基準の整合、共通基準化を進めていく。また、ブラジルや未だGENメンバーになっていないインドなどの環境ラベルについてもエコマークの仕組を参考に基準の整合を働きかけ、相互認証の実現にむけた取り組みを進めていく。

い。

- ・ GEN 事務局としてリーダーシップを発揮してきたことは非常に価値がある。広報において、世界のルール形成を担っていることを、もっと強くアピールしてほしい。エコマーク事業の展開について、ハードウェアにマークをつけることから、2020年の東京オリンピックに向けて、ホテル・旅館などのサービス業にエコマークをつけていくことは、非常に成長性が高い。日本の産業が第3次、第4次へと移り、ソフトウェアやアプリケーションなどにエコマークを付与することは良いアイデアである。自動車業界では電気自動車やハイブリッドカーなどを作っているが、排ガス問題だけでなく、製造過程からユーザーがどのように使うかという点まで踏み込んで対応している。米国で流行の「乗合」などを考えると、単に排ガス規制やCO2排出量規制だけでなく、使っていく中で環境影響を減らしていくと思うので、ノウハウやアプリケーション、ユーザーの使い方について注目するのはおもしろい。

事務局) 海外の国際協力関係の広報については、Web サイトの新規立上げや強化・充実などを進めているところである。より積極的に活動報告していきたいので、引き続きご意見を頂きたい。

サービス分野の展開については、エコマークが採りあげてから5年ほど経つが、今後も物品と平行してサービス分野への展開を重点的に進める予定である。頂いたご意見も参考に普及拡大に取り組んでいきたい。

- ・ サービス分野への展開は良いと思う。企画戦略委員会で対象やエリアの選定など論点整理をして、またこの場で報告頂きたい。国際的に各国・地域の環境ラベル団体と交流する中で、日本のエコマークが取り組めていない分野で環境ラベルが普及している製品・サービスがあれば、積極的に挑戦していくべきであり、そのような分野を優先的に検討してはどうか。

また、消費者向け広報と併せ、新分野でエコマーク対象商品を増やすためには製品・サービスを提供する法人側への広報も重要ではないか。

事務局) 新分野に着手する前段階として、業界ヒアリングや動向把握が重要と考えている。ご意見のとおり海外の環境ラベルにあって、エコマークでは未だ採りあげていない分野は多く、相互認証の拡大も視野に海外動向を踏まえて新規商品類型を検討していくことは重要と考えている。

- ・ 外部での講演活動について、家庭、地域、学校、職場などあらゆる場で環境に関する教育は必要と思う。3R、食品ロス、電力などわかりやすい身近な話題を絡めてエコマークを打ち出していくと良い。

また、Web サイトによる情報発信について、アクセス数がわかると進め方の参考になる。Web サイトのどのような部分が見やすいのか、見にくいのかなどを把握し、さらに工夫して頂きたい。

事務局) 学校、家庭などで学童にエコマーク浸透を図ることは重要であると考えている。ご

意見を踏まえて、今後も講演活動などの取組みを進めていきたい。

Web サイトの課題は滞在時間がまだまだ短いことである。情報発信の要でもあることから、見易さと検索エンジンにかかるようなサイトの構築・見直しを進めているところである。また、スマートフォンなど携帯端末からの検索への対応も検討していきたい。

- ・クールチョイスとの連携は重要だと思うが、現在、どの程度申込があるのか。  
事務局) 情報を公開した直後のため未だ 0 件である。今後、普及に努めていきたい。
- ・サービス分野の認定数はなかなか伸びていないが、最近ホテルが 5 件増えたのは良い傾向である。今後の見通しはどうか。  
事務局) 昨年の見直しとその後の普及活動により少しずつ関心が広まっていると考える。取得説明会を開き、個別フォローなどを進めている状況であるが、引き続き、認定数増に向け努力していく。
- ・サービス分野について、チェーンオペレーションも検討してはどうか。サービスという相互作用や要素がサービス価値を高めていくという効率などを考えると、チェーンストア全体を認証するような仕組みを考えることも必要と思う。
- ・現地監査について、ISO14001 では毎年サーベイランスと 3 年に 1 回の更新審査を受ける。これと合わせるというわけではないが、登録数に対する毎年の現地監査の数、バランス、比率の ISO14001 との違いをどのように考えているか。  
事務局) 現地監査は元々のシステムになかった事項で、信頼性確保や不正使用の問題などがあり 2009 年度に導入した。中国や韓国では工場監査が必須となっているが、ドイツブルーエンジェルでは基本的に現地監査を行わず、そのブルーエンジェルを基にしたエコマークでも取り入れていなかった。現在、問題がありそうな事案は監査を行い、現地に出向いている。数値の比較ではなく、また必須事項ではないが、信頼性確保、不正使用の抑止という観点から、現地を見るという姿勢で運用している。コンプライアンスのあり方は国によってまちまちであり、問題があった際はしっかりチェックできる仕組みを持つておくことが日本では有効と考えている。

## 5. その他

- 次回日程について、来年 3 月を目処に調整する。

以上